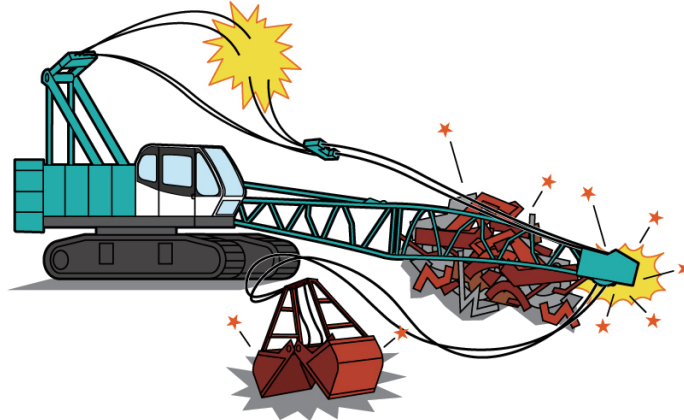


事故事例

起伏ワイヤーロープが切損し、ブーム落下事故

事故発生状況

スクラップの荷役作業中に、突然起伏ワイヤーロープが切れて、ブームが地面に落下した。



原因

起伏ワイヤーロープ点検及び交換を2年間行っていなかった。  
交換基準を超えて、使用していた。

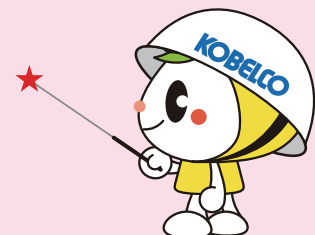


対策

日常点検、定期自主検査（月例・年次）にて  
ワイヤーロープの断線、摩耗・腐食などの点検を行う。

【ワイヤーロープの交換基準】

- ①ワイヤ1より（1ピッチ）の間で、フィラー線以外の素線が10%以上切れているもの。  
内部断線の点検は困難ですが、谷断線についてはロープを小さな半径に曲げると、断線した素線はみ出します。谷断線が発見されたら内部断線も進行しているので、すみやかに交換して下さい。
- ②摩耗などで、直径（公称径）が7%以上細くなっているもの。
- ③キンクしたもの。
- ④形崩れや腐食の著しいもの。
- ⑤過荷重を受けたり、シーブから外れたりして極端に引張られたもの。
- ⑥電流がショートしたもの。
- ⑦電気やガス溶接の火花を浴びたり、高熱を受けたもの。



問合せ先 : コベルコクレーン株式会社 カスタマーサポート本部 ☎078-936-1408